

## 観光振興施策に関する意見と想定される課題

## (1) 観光資源に関する意見

【凡例：「・」関係事業者意見、「○」委員意見】

観光振興に関する意見	想定される課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>世界で通用するコンテンツの開発・磨き上げが必要 (世界農業遺産や日本遺産, ラムサール条約湿地など)</li> <li>ニーズが弱い地域は新たな視点での観光資源磨き上げが効果的</li> <li>交流人口の増加や経済性が優先され, 地域の魅力づくりが不足している</li> <li>観光コンテンツはハードとソフト両方で不足している</li> <li>「政宗が育んだ「伊達」な文化」など貴重な文化等の観光コンテンツを磨き上げて付加価値をつけ, 訴求力を高めるような取組が必要</li> <li>インバウンドは旅行先ならではの特産品の料理やお土産を求めている</li> <li>ビジターセンターは老朽化が激しいため, 改修してほしい</li> <li>ビジターセンターはオルレの出発地点・ゴールでもあり休憩スペースなどがほしく, 地域の集会等にも使える施設であると良い</li> <li>観光客が減少してしまう冬は集客力のある温浴施設等があると良い</li> <li>冬場は地域資源を前面に出して, 活かしていくことが大事だと思っている</li> <li>仙台・宮城の強みプロスポーツチームを最大限活用することが必要(プロ野球, サッカー, バスケットボール)</li> <li>中国人リピーターに満足してもらえる仕掛けが必要, 医療ツーリズムで中国の富裕層を取り込みたい(アグリツーリズム, 田んぼアート, 教育旅行)</li> <li>鉄道やバス利用者のその先の移動手段として可能性のあるサイクルツーリズムを推進している</li> <li>塩竈から松島まで直線で橋を架けて港観光や水上観光という取組のほか, 牡鹿半島, 松島, 奥松島等を活かした東北に今までない離島観光にチャレンジするのも面白い</li> <li>接点ツーリズムとして, テーマごと接点のあるルート造成に取り組むことが大切(特定の建築家による建築物など)</li> <li>○国内観光客がどのようなルートで観光するのか, また, 直接的に観光に関係する商品や交通以外にも, 違った視点で様々な業界の意見を聞くことも必要である</li> <li>○観光のトレンドがアウトドアに移っていることもあり, 対策を考えていく必要がある</li> <li>宮城県への宿泊を増やし体験型の経験を積んでもらうことが将来の観光需要の創出につながる</li> <li>地元の方と接点を持つような取組は必ずインバウンドとアウトバウンド双方の関係に育っていく</li> <li>長期滞在してもらえるような滞在型のプログラムを検討しており, 伝統工芸品のこけし絵付けや農業体験など様々な体験を取り入れた商品開発が必要</li> <li>多様な宿泊形態への対応やナイトツーリズムなど滞在期間を延ばし観光消費額を高める取組が必要</li> <li>震災後の道路整備が進み, 宿泊よりも日帰りする観光客が増えていると感じる</li> <li>インバウンド向けの観光素材の磨き上げとして, ナイトメニューの充実が必要(夜の観光地のライトアップのような観光素材の磨き上げ)</li> <li>県内の歴史ある温泉街など観光地の景観整備事業に対して補助する仕組みを検討してほしい</li> <li>温泉街に年々空き店舗が増加しており, これまでも様々な団体が改善策を考えてきたが, どれも成功に繋がっていない</li> <li>沿岸部のにぎわいの創出については, 観光施設等への補助制度だけではなく, もう少し具体的な取組が必要</li> <li>沿岸部のにぎわい創出は大きな課題, 沿岸部のコンテンツの活用や被災地に訪れる仕組み作りが必要(オルレや教育旅行など)</li> <li>沿岸部はハードは整ってきているがソフトがまだ弱い</li> <li>教育旅行や台湾からのインターンの受入拡大を通し, リピーター育成につながる施策が必要</li> <li>教育旅行は国内, 特に関西圏に相当需要があり, 防災学習に興味を持っている学校も多くある</li> <li>県は防災と観光の融合について取り組むべきだと思う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の魅力を活かした観光資源が不足</li> <li>観光地としての魅力づくりが不十分</li> <li>観光コンテンツの整備がハードとソフト両面で不十分</li> <li>地域の拠点となる観光施設の整備が必要</li> <li>ニューツーリズムなど新たな視点での観光の取組が必要</li> <li>特定目的観光など観光客のニーズに合わせた取組が必要</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>体験型観光の取組が不十分</li> <li>観光客の満足度を高める取組が不十分</li> <li>観光消費額を高める取組が必要</li> <li>観光客の長期滞在化や再訪問率を上げる取組が必要</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史ある街並みなどの観光資源や景観の整備が不十分</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>沿岸部のにぎわい創出が不十分</li> <li>沿岸部の観光コンテンツが不足</li> <li>インバウンド及び国内向けの教育旅行の取組が必要</li> <li>防災観光の取組が不十分</li> </ul>	

## (2) 受入環境に関する意見

観光振興に関する意見	想定される課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>二次交通が不足している</li> <li>仙台空港からのバスも利用客数が少なく, 二次交通はどのように需要を創っていくかが課題</li> <li>仙台空港からの二次交通の充実が課題</li> <li>観光地をつなぐ二次交通が不足している</li> <li>海外プロモーションにおいても観光地への交通手段が課題, 二次三次交通の整備の必要性を感じる</li> <li>観光型 MaaS の推進, 二次・三次交通の利便性向上が必要であり, また, 定額制のタクシーなど, 目的地までいくらで行けるかわかりやすく伝える仕組みが必要</li> <li>FIT 客向けにエアラインと二次交通が連携した予約機能があれば有効</li> <li>MaaS が重要, アプリの普及促進のため, コンソーシアムにより取り組んでいく必要がある</li> <li>交通インフラ整備に対する資金面での公的支援も必要ではないか</li> <li>東北の高速道路が乗り放題になる東北フリーパスがあまり流通していないなど, 旅行エージェントや宿泊施設が連携してセット商品売り込んでいくような仕組みが必要ではないか</li> <li>東北のゴールデンルートを結ぶ高速路線バスなど基幹的な路線には助成金等があると良い</li> <li>交流人口の拡大には, 二次交通の充実が必要であり, 三陸自動車道の延伸と併せて地域の道路整備にも取り組んでほしい</li> <li>震災からの復興には鉄道の復旧が間違いなく必要, その推進に取り組んでほしい</li> <li>レンタカー利用者が多く今後も増加が見込まれるので, レンタカー利用への割引などがあると良い</li> <li>離島に架かった橋にアクセスする県道が極めて狭隘な山道のため, 早期整備を期待する</li> <li>○外国の方に聞くと沿岸部に向かうバスが走っていないと言われるので, 二次交通の対応を考えていく必要がある</li> <li>日本全体で最も多い中国からの旅行客を東北にもっと増やすため, 現在の上海経由北京便に加え, 他の大都市との間に航空路線を拡大したい</li> <li>重点市場のタイやオーストラリアからの直行便誘致や国内線乗り継ぎ等の戦略的取組が必要</li> <li>インバウンド拡大や航空路線の維持等のためアウトバウンドの強化が重要</li> <li>インバウンドを増やしていくためには航空路線の拡大が必要, 路線を誘致し定着するまでのリスクに対して行政の支援が必要</li> <li>人材不足や大型機材の不足などがエアライン誘致交渉の制約になるため, 支援が必要</li> <li>アウト(宮城県民の国内外への旅行)の増加にしっかり取り組まないとインが増えない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光地に行くための道路や鉄道の整備が必要</li> <li>仙台空港や仙台駅からの二次交通が不足</li> <li>観光地と観光地をつなぐ二次交通が不足</li> <li>インバウンドにも利用しやすい二次交通の仕組みが必要</li> <li>重点市場からの航空路線の誘致・拡大の取組が不足</li> <li>国内線による乗り継ぎの取組が必要</li> <li>インバウンド拡大・航空路線の維持の為にアウトバウンドの取組が必要</li> <li>航空路線拡大のためには航空会社等への支援が必要</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・県民のパスポートの保有率を高めるためには、宮城県の学校の海外修学旅行など、幼少期、学生時代からのアウトバウンドの増加の取組が必要</li> <li>・エアラインへの補助金について各県の対応状況を踏まえて検討した方が良い</li> <li>・短期的には、航空会社に補助金を出すことも必要</li> <li>・観光の起点となるビジターセンターのような施設が必要</li> <li>・案内表示の広域的なデザイン統一などに取り組んでほしい</li> <li>・沿岸部の道路整備が進むとともに案内看板の整備が必要</li> <li>・案内看板は訪日外国人にわかりにくい</li> <li>・観光案内板など、外国人が見やすいデザインなど統一されたガイドラインがあると良い</li> <li>・道路のサインが少ないので、行き先に何があるのか観光情報をピックアップしたもの等をサインとして整備してほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光の拠点となる施設が不足</li> <li>・観光案内板がわかりにくい</li> <li>・観光案内板が不足</li> </ul>
<p>○宮城県も次世代の観光の在り方を少し意識していく必要があり、例えば、既存の観光施設を作り替えてワンストップで様々なサービスを提供するなど、状況の変化に柔軟に対応していく必要がある</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・無料Wi-Fiが切れ目なく使えるなど、利便性の高い環境整備が必要ではないか</li> <li>・Wi-Fi環境について半島や離島などの店舗のない自然エリアにも今後整備を進めてほしい</li> <li>・災害時の観光地の受入態勢整備は進んでいないことから、対策が必要</li> <li>・外国人にも沿岸部の津波被害の印象は強く防災意識を高めることは課題</li> <li>・被災地ならではの安全性にも対応した町づくりを魅力の一つにできないか</li> <li>・インバウンド対応事業としてキャッシュレス事業は将来的に取り組むたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無料Wi-Fiが使えるエリアの拡大が必要</li> <li>・無料Wi-Fiが安定的に快適に使える環境の整備が必要</li> <li>・観光客の安心安全への対応が不十分</li> <li>・災害時の観光客の受入態勢や安全対策が不十分</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・多言語表記や通信決済環境など県内で途切れなくサービスが受けられる環境整備について、県が一括して取り組むべき</li> <li>・ハラル対応などの多様性への対応に積極的に取り組むべき</li> <li>・LGBT、ハラル、ベジタリアンなど多様性への対応が重要であるが、具体的な商品造成が少ない</li> <li>・民宿等でインバウンド対応のための翻訳機の購入補助があると良い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・案内表示や情報発信の多言語対応が不十分</li> <li>・外国人観光客が買い物しやすいキャッシュレス環境が不十分</li> <li>・海外の文化・生活習慣に配慮した対応が不十分</li> </ul>

### (3) 情報発信に関する意見

観光振興に関する意見	想定される課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・インバウンドは長距離移動・周遊が当たり前なので、国内観光地とアクセスを強化しダイナミックに結ぶことが必要</li> <li>・訪日外国人旅行者の視点に立った東北一体でのプロモーションや海外PRが必要</li> <li>・磨き上げたコンテンツを東北全域でプロモーションする取組の強化が必要</li> <li>・樹氷は国内外に売れるキラコンテンツ、他自治体と広域的に連携し取り組んでいきたい</li> <li>・観光は広域的な「面」で成り立っていくものではないか</li> <li>・プロモーションは東北全体みたいなものを打ち出して強力に取り組む方が効果的</li> <li>・機材が大きい航空会社が就航すれば東北の広域連携は重要になってくる</li> <li>・欧米からの観光客を迎え入れるためには、域内に加えて域外との連携が必要</li> <li>・すでに欧米からインバウンドが多く訪れている国内空港からの目的地に東北を加える取組が重要かつ有効である</li> <li>・首都圏の都道府県と強い連携をしていくべき（東京都の「TOHOKU&amp;TOKYO」というインバウンド向けのプロモーションなど）</li> <li>・仙台空港の直行便だけでなく、関西や北海道との連携を更に深めることが需要の創出につながる</li> <li>・今後伸びる可能性があるのは関西路線、関西から東北、東京経由で東北の取組が必要</li> <li>・初めての訪日客より、既にインバウンドが多く訪れている国内観光地と連携して、東北をPRをすることが必要ではないか</li> <li>・広域的な観光ルートの造成が重要、宮城県は東北の広域観光に取り組んでいくべき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東北での広域連携による観光ルートが不足</li> <li>・東北が一体となったプロモーションが不十分</li> <li>・国内観光地と連携した国内外の観光客の取り込みが必要</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮城県の知名度が低い</li> <li>・仙台市と連携した大規模なMICE誘致、県内周遊の取組が必要</li> <li>・海外では宮城県の認知度が非常に低く、プロモーションが不足している</li> <li>・一時的な海外プロモーションではリピート率の向上及び消費額の増加につながらない</li> <li>・中国・欧米豪は一人当たりの観光消費単価が高いので取組を強化すべき</li> <li>・外国人観光客数は増加しているものの、他県と比較すると伸び悩んでいる</li> <li>・豊富な観光コンテンツなど高いポテンシャルを秘めているが、認知度の低さが問題</li> <li>・インフルエンサー招請など素人目線での情報発信は口コミで広がりやすい</li> <li>・東北のインバウンドマーケットの牽引役である台湾との関係を維持・強化していく必要がある</li> <li>・国際会議等が仙台市で開催されても、なかなか沿岸部まで足を運んでもらえない、企業努力も必要だが行政からも指導や支援がほしい</li> <li>・プロモーションについて、カスタマージャーニーとマーケティングに基づいて、商談会等のプロモーション機会における効果を最大化できるようにしていくべきであり、また、様々な団体のプロモーションが重複している例があるので、県には調整的役割を期待したい</li> <li>・香港・韓国は原発事故の風評被害の影響が大きく、今後の伸び代が期待できる</li> <li>・風評被害の残る韓国や香港との関係性の再構築が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外では宮城県の認知度・知名度が低い</li> <li>・効果的なインバウンド向けプロモーションが必要</li> <li>・ターゲットを見据えた戦略的な取組が必要</li> <li>・MICE等による大規模な誘致策と県内周遊の仕組みが不足</li> <li>・原発事故の風評被害が大きい国との関係性の再構築が必要</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地方と地方を結ぶ国内マーケットの活性化に取り組むべき</li> <li>・宮城の優れた食材（塩竈のブランド鮭「ひがしもの」や石巻の「金華さば」など）や観光素材の良さが首都圏等で伝わっているか疑問である、生産・流通等の観光以外の分野とも連携しアピールしていく取組が必要</li> <li>・観光素材の発掘や磨き上げが不足しており、さらにプロモーションするサイクルが大事</li> <li>・仙台空港の国内線は東北の利用者に支えられており、もっとインの取組の必要性がある</li> <li>・海外からの誘客を促進するためには被災地を国内の各地、各分野の方々に視察してもらい、広く理解を進めることが重要</li> <li>○インバウンドの増加の影で、国内旅行者がかなり減ってきており、観光客の高齢化により国内の動きが少なくなっていることへの対策をどうするのか議論する必要がある</li> <li>・世界に向けてデジタル戦略中心のプロモーションが必要</li> <li>・デジタルプロモーションなどの先を見据えた戦略が必要</li> <li>・海外のスマホ世代に届くような情報発信の仕組みづくりが必要</li> <li>・インフルエンサーに観光コンテンツを体験させ、SNSで発信してもらうのが効果的</li> <li>・スマホを活用した観光客の「口コミ」の影響力を観光振興に活用するためにハード、ソフトの基盤整備が必要ではないか</li> <li>・多種多様なプラットフォームを立ち上げて取り組むよりも、大手検索サイトの精度を上げて地域の情報にマッチングさせていくことが大事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地方と地方を結んで国内マーケット活性化が必要</li> <li>・国内観光地との連携が不十分</li> <li>・首都圏と連携して宮城の食材や観光地の良さを伝えるべき</li> <li>・もっと国内から東北に観光客を呼び込む必要がある</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・先を見据えたデジタル戦略中心のプロモーションが必要</li> <li>・インバウンド向けの効果的な情報発信が不十分</li> <li>・SNSを活用した効果的な情報発信が必要</li> <li>・スマホを活用した取組が必要</li> </ul>	

○世界的には観光客の伸びしろは若い世代にあるというのが常識であり、そういった世代をどう獲得するかを議論する上では、AI やデジタルマーケティングが重要である
○東北の外国人観光客は全国の 1.3%に留まっていることから、インバウンドはまだ伸びしろがあるので、東北地方だけではなく北海道や東京などとの協力も検討する必要がある
○ミレニアル世代への宮城県の認知が進んでいないという課題があり、デジタル戦略の強化が重要である
○観光客へのアイコンづくりとして、「ないもの探し」ではなく「あるもの見つけ」をして、若い人に選ばれる磨き上げたコンテンツを SNS などデジタルで情報発信するのが世界で勝つための法則であり、数値に基づいてデジタルを活用し情報発信できる戦略を継続することが成功につながる

(4) 体制強化に関する意見

観光振興に関する意見	想定される課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の改修のための休業期間に発生する雇用や固定資産税等のコストに何らかの支援が必要</li> <li>・廃業した宿泊施設などを購入して創業する外部事業者への支援制度があると良いのではないか</li> <li>・宿泊の底辺を広げていく際に民泊は重要、石巻は民宿の約2割しか再開していない</li> <li>・民宿は補助金等の活用期限や再開意欲を失っている問題があり、民泊が補うのかと思う</li> <li>・温泉の硫黄の影響で家電製品が壊れやすくなっており、頻繁に買い替えしなければならない設備投資への一部補助などの対策を講じてほしい</li> <li>・観光地として存続していけるよう、設備投資等への補助なども検討してほしい</li> <li>・直接の津波被害は受けていない施設等についても震災時は被災者を受け入れる避難所の役目を果たしており、修繕等について補助制度があると良い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光施設等の開業への支援が必要</li> <li>・観光施設等の建物・設備の整備への支援が不十分</li> <li>・民泊への支援が不十分</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様化するニーズや人材不足に対応するため、伝統的な日本旅館のサービス形態の改善が必要</li> <li>・外国人は旅館を高いと感じ、安価なホテルに流れやすい傾向がある</li> <li>・地域に外から入ってきた新規事業者への支援制度を検討してはどうか</li> <li>・仙台市内は大手資本のビジネスチェーンホテルが大幅に増えており、一部は地元ホテルだがほとんどは全国チェーンの宿泊特化型ホテルのため、これをなんとかしていかないといけない</li> <li>・DMO や株式会社なども含め自助努力をしているアントレプレナー的な事業者に対して支援が必要</li> <li>・航空会社に対して補助金等を出すよりも地元への経済効果も大きい宿泊施設等を支援する方が良い</li> <li>・マーケットインの視点により、地域内調達率、循環率の上昇を意識した商品づくりができていない</li> <li>・AI やロボット等を活用した生産性向上や外国人労働者の活用など積極的に取り組んでほしい</li> <li>・地域おこし協力隊について制度期間の3年経過後に移住先で事業を立ち上げる際の事業資金等の工面が難しい</li> <li>・地元にいる若手が何か事業を興す場合に資金面等のリスクが高い</li> <li>・地元事業者の人手不足が問題化しており定住・移住促進希望者へ家賃補助などの優遇制度が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光事業者の生産性の向上や経営サービスの改善が必要</li> <li>・観光産業への新規参入事業者への支援が必要</li> <li>・観光の新たな取組への支援が必要</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光地としてのコーディネートができる人材育成が重要</li> <li>・質の高い観光ガイド・コーディネーター等の人材育成は重要</li> <li>・豊富な観光資源を専門家の目で見ても絞り込み、ブラッシュアップすることも必要</li> <li>・沿岸部の観光客が増加しているが、より満足度を上げてもらうには観光人材の育成が必要</li> <li>・しっかりおもてなしができる人材の育成が必要</li> <li>・外部目線での意見は地元が見落としている気づきをくれるので大事</li> <li>・観光を産業と捉え、プログラム開発や人材育成など基盤整備への支援が必要</li> <li>・観光産業の生産性を上げることが重要、そのためには人材育成が必要</li> <li>・大手進出や人手不足、財務状況の悪化等の環境変化に伴い旅館やホテルのマインドが低下しており、改善していかないといけない</li> <li>・質の高いガイド人材が不足しており、海外のニーズに応えられていないため、育成が必要である</li> <li>・地域の稼ぐ力を引き出すためには、地域資源の価値を高めていくガイドラインを設けることや指導できるアドバイザーを置くことなどが必要</li> <li>・県が一定以上の能力を有するガイドを認証する制度を作り、優先的に仕事が回せるような地盤を作れると良い</li> <li>・AI やロボット等を活用した生産性向上や外国人労働者の活用など積極的に取り組んでほしい</li> <li>・今一番の懸案としては、会員の担い手が不足しているということであり、こういった活動に興味のある方を県でも募集等してもらえると助かる</li> <li>・SNS を中心としたPRの展開や、体験メニューの充実のため若い新たな人材が必要</li> <li>・商談会の場において地域の魅力を売り込める人材が不足しているので、行政の支援が必要であり、人材育成も細く長く続けていただきたいと思う</li> <li>○体験メニュー等については、対象を絞ればその分人手はいらなくなるし、誰に来てほしいかを明確にして逆を選んでいく、こういった取組に対しアドバイスをもらえるメンター等の活用支援があると良い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光地をマネジメントできる人材が不足</li> <li>・質の高いガイド・コーディネーター人材が不足</li> <li>・観光産業の生産性向上や経営サービスを改善できる人材が不足</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人目線でニーズが高い観光資源を世界に発信する取組が必要</li> <li>・アジアの旅行消費の大きい若い世代に向けたコンテンツの整備が必要</li> <li>・県内各地域の観光資源についてニーズに合わせた情報発信が必要</li> <li>・マーケティングは個別に行うのではなく、県が全域で調査して各団体等が利用できると効率的</li> <li>・観光戦略の立案や直行便誘致に繋げるため、宮城県に入ってくる訪日外国人の実態把握が必要</li> <li>・感覚や経験ではなくマーケティングデータに基づいた観光戦略を展開すべきであり、予算をかけて継続的かつ長期的に取り組む必要がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マーケティング・リサーチの取組が不十分</li> <li>・インバウンドの多様化するニーズの把握が必要</li> <li>・インバウンドの動向や移動手段等の把握が必要</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・県・市町村・DMO・観光協会などの観光に関わる組織整理が必要</li> <li>・市町村やDMOの取組に県が財政的に支援するような制度があると良い</li> <li>・DMOが地域の観光素材の磨き上げ、観光客の動向やニーズを把握する必要がある</li> <li>・県と市町村、団体、民間等の役割分担を明確化し、連携しながら取り組む必要がある</li> <li>・他県は官民一体でプロモーションを実施しており、県が先頭に立ち連携・情報交換することが必要</li> <li>・市町村を横断しての着地型観光のプラットフォームの取組については、本来はDMOにもっと力を入れて努力していただきたい</li> <li>・DMOが主導する観光地域づくりに積極的に関わりたいので、DMOとの関係性を強化していくようにアドバイスをいただきたい</li> <li>・観光産業は持続可能な開発目標の達成に大きな貢献が期待されるため、持続的な地域づくりが必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DMOや観光地域づくりへの支援が不足</li> <li>・観光組織の強化連携が必要</li> <li>・持続的な観光地域づくりへの取組が必要</li> </ul>